

「賀川豊彦と世界平和」

明治学院同窓会新年交流会

2019年1月20日 加山 久夫

I はじめに

一、賀川豊彦は平和主義者だったか？

賀川の平和主義について語ることの難しさ。賀川は間違いなく、平和主義者であったが、戦争下の言動には、それを疑わせるものもある。ある人は戦時下「転向」したと言い、ある人は彼は日和見主義者だったと言う。

私見：（１）賀川は終生平和を追求したキリスト者国際人だった。

（２）しかし、日露戦争、日中戦争、太平洋戦争と相次ぐ戦争の時代状況の下で社会運動家であった賀川の言動をどう理解するか、は一筋縄ではゆかない。直線的に捉えようとすると、複雑なマインドであった賀川を過度に単純化したり、抽象化してしまうことになる。

二、歴史をどう捉えるか

（１）大きな絵を描くこと （２）細部にこだわること

「対象をよく見る」「中心はどこか」「画面いっぱい」。

（１）は直感的に対象をとらえ、その存在の本質を表現するために重要。

（２）は研究者の文献に基づく実証主義。

三、理論と実践

- ・賀川の場合、単なる理論家（学者や評論家）ではなく、社会運動家として実践を自らの使命とした人。
- ・賀川は、戦争と平和を考えると、経済（貧困や貧富格差）の問題（人間のくらし）を重要視した人だった。

II 賀川豊彦の平和論（少年時代から晩年までの平和思想）

（１）「世界平和論——帝国主義は人文史の一階級」（明治39〔1906〕年8月16～24日）
徳島毎日新聞に掲載（6回） 18歳

（２）「軍備の撤廃せられるまで」（『軍備縮小講演集』より）
（大正11〔1922〕年）別紙① 34歳

国際的には、国際連盟が設立されたり、ロンドン軍縮会議やワシントン軍縮会議が行われた時代（第一次世界大戦の反省から）、日本では、「大正デモクラシー」の時代。それでも、思想や言論の統制があった。（別紙「平和の道」）

（３）「戦争は防止し得るか——世界平和の協同組合作」（昭和10〔1935〕年）
（日英両語）（自費出版） 47歳

・国際連盟に国際協同組合制度および国際信用組合銀行、そして地域別に世界経済連盟の設立を提言。

（４）『世界国家』（昭和22〔1947〕年～32〔1957〕年） 59～69歳
（賀川豊彦全集 10巻 293～451頁）別紙②③④

（５）『少年平和読本』村島帰之編集（昭和26〔1951〕年）
（『世界国家』昭和23～25年所収） 63歳

III 賀川豊彦の平和運動（実践家として）

1. 昭和3（1928）年10月 全国非戦同盟を設立（尾崎行雄らと）

2. 協同組合運動

- ・神戸消費組合（大正9〔1920〕年）
- ・灘購買組合（大正10〔1921〕年）
- ・江東消費組合（昭和2〔1927〕年）
- ・日本協同組合同盟（昭和20〔1945〕年11月 会長に就任）
- ・日本生活協同組合（昭和23〔1948〕年） 初代会長に就任
スローガン「平和とよりよき生活のために」

3. 世界連邦運動
 - ・昭和20（1945）年8月19日、松沢教会にて説教「世界国家」
 - ・昭和20（1945）年9月 国際平和協会→47年『世界国家』発刊
 - ・昭和23（1948年）8月 世界連邦建設同盟（現在の世界連邦運動協会）
尾崎行雄会長 賀川豊彦副会長
 - ・世界連邦アジア会議 1952年（広島）、1954年（東京）1957年（京都）にて議長をつとめる。世界連邦世界運動副の総裁に就任（1954年）。
 - ・国連未加盟国会議（東京で開催）の議長をつとめる。
4. ノーベル平和賞候補となる（1955年）

IV いま、賀川豊彦から平和を考える

1. 労働運動、農民運動、協同組合運動、普選運動、無産政党樹立運動、平和運動など多様な社会運動の基礎となった神戸貧民街におけるセツルメント活動（貧しい人々のよき隣人となる「人格的交流運動」）→戦後、今日の協同組合に継承されているか。その理念・精神は実践活動のなかで継承されているか。
2. 賀川豊彦の目指したものの多くは、日本国憲法のもと制度的に実現してきたが、貧富格差や貧困の問題は顕在化し、人びとの相愛互助によるよりよい暮らしは希薄化しているのではないか。いま再び「賀川豊彦」の出番がある。
3. 賀川豊彦にとって、協同組合運動と世界連邦運動は世界平和実現のための道であった。この道は、賀川の理想主義と現実主義が融合しており、人類社会の目指すべき正しい方向が指し示しているのではないか。
4. 本学は横浜校舎の開設にともない国際学部および国際平和研究所（キリスト教研究所と共に学長直属）を設立。賀川の平和思想の批判的検証を期待したい。